

- 一、前、後とあるは深夜業廢止前、後を意味し、差實數とは前後の差の實數を示す。
- 二、百分率とは差實數を深夜業廢止前の實數にて除したる百分率にして小數第三位は切捨たるものなり。
- 三、△印を附したるは深夜業廢止後の方、廢止前より増加したるものを示し、之なきは減少を示す。
- 四、綿織(一)及(二)とあるは紡績會社兼營綿織物工場及獨立綿織物工場を意味す。

第十四章 結論

深夜業廢止後に於ては實働時間數に於て一五%の減少なるも生産高の増減は實働時間數に必ずしも比例するものではない。スピンドルの回轉數、クランクシャフトの回轉數、労働者の技術の程度、原料の良否、作業室の環境等によりて影響を受くるが故に適確なる斷定は困難である。然るに現實に如何なる影響を生産高の上に及ぼしたるかを考究するに、一日一錘當りの生産高に於て最大の影響を受けたるは、綿絲紡績業にして約二〇%の生産減を來して居る。之に次ぐは絹絲紡績業の一六%強の減少であり、紡績中の最低の影響を受けたるは紡毛紡績業にして五・〇六%の減少である。然るに回轉數に數て絹絲紡績業は五・五九%の増加をなして尙且一六%強の減少なるが故に、回轉數増加をなさざりしなれば、綿絲紡績業以上の減少率を來したるものと思考せられる。

一日一臺當の織物の生産高は紡績會社兼營の織布工場は一四・一八%の減少であるが之は回轉數に約三%弱の減少がある、之に次ぐは獨立織布工場にして一二・〇六%の減少であり、最低減少は毛織の一・一七%である。

一日一臺當總機の生産高は一日一人當りの生産高であるが、最高の減少は一五%強の麻絲にして、最低は七%強減少の梳毛絲である。

一日一人當りの生産高に於ては受持臺數若は錘數の増加等により紡毛紡績にありては一八%強、毛織物にありては一・五%強の生産増加を來し、其の他の業務にありては一日一錘若は一臺當の生産は減少して居る。其の最高は絹絲紡績の八%強であり、最低梳毛紡績の二・五%弱である。

第四十五表 深夜業廢止前後生産高増減率比較表

業 務 別 種 別	紡 績		一 日 一 錘 當	一 日 一 人 當	スピンドルノ平均回轉數
	綿 絹 梳 紡 麻	毛 毛			
綿 絹 梳 紡 麻	紡 紡 紡 紡	紡 紡 紡 紡	一九・九三 一六・三九 一二・五三 五・〇六 五・六七	六・六〇 八・〇三 二・四九 一八・二七 四・八三	△ △ △ △ △
毛 毛	紡 紡 紡 紡	紡 紡 紡 紡	一四・一八 一二・〇六 一・一七 七・二八	三・二八 三・八五 一・五六	△ △ △
織 織 (二)(一)	紡 紡 紡 紡	紡 紡 紡 紡			〇・二三 五・五九 〇・四四 一・六一 〇・九七

業務別	種別		一日一鍾當	一日一人當	スピンドルノ平均回轉數
	總	別			
綿	梳	紡	八・七三		一・八二
	梳	紡	七・二八		一・三三
麻	梳	紡	一五・四六		
	梳	紡			

備考 一、綿織(一)及(二)とあるは、紡績會社兼管綿織物工場及獨立綿織物工場を意味す。
二、△印は増加を意味す。

然るに之等の生産高減少率は第四十五表に示すが如く、回轉數に於て増減をなしたるの結果によるものもあれども、回轉數に變更を加へざりし工場の總平均を製品別に表示すは第四十六表の如く一日一鍾當の生産減少率の最高は麻絲紡績の一五%にして、最低は紡毛紡績の四・四三%である。又一日一臺當の生産減少率の最高は獨立綿織物工場にして、最低は綿絲紡績工場の總機生産高の五・三四%減である。一日一人當りにありては紡毛紡績は一四・二三%の増加ありたるも、減少率の最高は毛織物の一五・一〇%にして、其他は大同小異の減少率である。何れの業務にありても大いなる努力をなしたる跡あれども尙環境、原料及労働者等に關する相當考慮改善をなす必要ありと認められる。

第四十六表 回轉數不變更工場の生産高増減率比較

業務別	種別	一日一鍾當		一日一人當	
		紡	綿	紡	綿
紡	綿	八・九七		九・五四	

紐	物	績	
		紡	綿
總梳綿	麻毛綿綿	紡	綿
		紡	綿
紡毛紡	織織(二)(一)	紡	綿
		紡	綿
		一五・四六	一五・四六
		一二・二八	九・三一
		四・四三	一四・二三
		一五・〇八	八・一八
		一二・八七	〇・〇五
		一四・一六	一〇・六六
		一一・七三	一五・一〇
		七・二八	
		五・三四	五・三四
		一二・三七	一二・三七
		一五・四六	一五・四六

備考 一、綿織(一)及(二)とあるは、紡績會社兼管綿織物工場及獨立綿織物工場を意味す。
二、△印は増加を意味す。

第四編 職工傷病率及出勤率に及ぼしたる影響

第一章 緒言

職工の罹病狀況に就きては調査各月の新受診患者を感冒、結核、呼吸器疾患、消化器疾患、血行器疾患、眼の疾患、其他の疾患、業務上及業務外の外傷に分ちて記載せしめ、各月末在籍人員によりて各月の新患發生の割合を明かにし、更に平均出勤率は前番、後番別に記載せしめて深夜業禁止前後の

比較を試みたのである。本調査に於て集計し得たる工場数は綿紡績工場六六、綿紡織七二、綿織物二三、毛紡織一八、絹紡織二三、麻紡織四、合計二〇六工場である（第四十七表参照）。

第二章 傷病率

全工場に就て観るときは各月末在籍人員平均は昭和三年分男工五六、三三一・七人、女工一七四、一六九・九人、昭和四年分は男工五八、一〇五・一人、女工一八六、四七八・八人にして昭和四年分に於て職工數稍多きも兩年度共稍近似の數字を示してゐる。之等職工の五ヶ月間の平均一ヶ月新受診患者數を觀るに疾病にありては男工昭和三年度二〇、三五一・二人、同昭和四年度一七、二五一・二人、女工昭和三年度五五、七二二・〇人、昭和四年度五三、三二二・九人にして深夜業禁止後職工數増加したるに拘はらず罹病者數は減少してゐる。之に反して負傷者數は男工昭和三年度三、〇三二・六人、同昭和四年度三、〇五八・六人、女工昭和三年度五、九四三・四人、昭和四年度六、四四七・九人にして實數に於ては深夜業禁止後増加せりと見られる。

次に月末在籍職工數を基本として、之に對する新受診患者數の割合即ち一ヶ月間の平均傷病率を觀るに、疾病にありては男工昭和三年度三六一・二%、昭和四年度二九六・八%にして深夜業禁止後の一ヶ月平均罹病率は禁止前に比して六四・四%を減じ、女工にありては昭和三年度三一九・九%、昭和四年度二八六・〇%にして深夜業禁止後は禁止前に比して男工同様三四・〇%の減少を示してゐる。之に

反し負傷にありては男工昭和三年度五三・九%、昭和四年度五二・六%、女工昭和三年度三四・一%、昭和四年度三四・五%にして大差がない。即ち調査全工場に就て観るときは深夜業禁止後職工の罹病率著しく減少したるも負傷に於ては殆ど變化なしと觀てよい。

各業種別に之を觀るときは綿紡績業にありては深夜業禁止後男工は平均一ヶ月罹病率一〇九・四%を、女工は四七・四%を減じ、綿紡織業にありては男工は五六・四%を、女工は二三・二%を減じ、織物業にありては男女共大差なく、毛紡織業にありては男工は二五・五%を、女工は一八・八%を減じ、絹紡織業にありては男工は六四・一%を、女工は六八・二%を減じ、麻紡織業にありては男工は三三・四%を、女工は三六・五%を減少してゐる。

而して負傷にありては各業種共大差なく、獨り絹紡織業女工に於て僅かの増加が認められる（第四十八及四十九表参照）。

次に病類別に之を觀察するときには感冒にありては男工昭和三年度八五・二%に對し、昭和四年度七一・八%にして深夜業禁止後一三・四%を減じ、女工は昭和三年度六九・三%、四年度六〇・四%にして八・九%を減じ、業種別にては綿織物業男女工、麻紡織業男工に於て著しき變化なきも、綿紡績、綿紡織、毛紡織、絹紡織男女工及麻紡織女工に於て何れも深夜業禁止後感冒の減少を見たのである。

結核は男工昭和三年度〇・四%、昭和四年度〇・三%、女工昭和三年度〇・四四%、昭和四年度〇・四

三%にして大差なく、唯綿紡織男工に於て稍減少してゐる。

結核以外の呼吸器疾患にありては男工昭和三年度二八・六%、昭和四年度二三・八%、女工昭和三年度二五・九%、四年度二二・一%にして、男女工共深夜業禁止後減少を見たのであるが、各業種別に観るときは綿紡織男工、綿紡織女工、絹紡織男工、麻紡織女工等に於て減少を見、其他にありては大差がない。

消化器疾患にありては男工昭和三年度九九・六%、昭和四年度八三・一%、女工昭和三年度七八・四%、四年度六五・七%にして男女工共深夜業禁止後著しく減少したことが認められる。之を業種別に観るときは綿織物、毛紡織、麻紡織男女工共大差なきも、其の他の綿紡織及絹紡織男女工は著しく減少し、綿紡織も亦減少したのである。

血行器の疾患にありては男工昭和三年度四・〇%、四年度三・六%、女工昭和三年度三・一%、四年度二・九%にして大差なく、業種別にては綿紡織男女工のみ深夜業禁止後稍減少を見た外大差がない。眼の疾患にありては男工昭和三年度三一・〇%、四年度二六・六%にして深夜業禁止後稍減少し、女工昭和三年度三二・六%、四年度三一・六%にして大差なく、業種別に観るときは綿紡織男工、綿紡織男女工に於て深夜業禁止後罹病率の減少を示し、綿紡織女工は却て稍増加を示し、其の他の業種にありては大差がないのである。

前記以外の疾患にありては男工昭和三年度一一二・四%、四年度八七・六%、女工昭和三年度一一〇・

一%、四年度一〇二・九%にして男女工共深夜業禁止後稍減少し、業種別に観るときは織物男女工、麻紡織男工は大差なきも其の他の業種にありては何れも深夜業禁止後減少を見たのである。

次に外傷を業務上及業務外に分ちて観るときは業務上にありては男工昭和三年度一六・〇%、四年度一四・七%にして大差なく、女工昭和三年度六・〇%、四年度五・二%にして深夜業禁止後稍減少し、業務外にありては男工禁止前後共三七・九%にて差なく、女工は昭和三年度二八・一%、四年度二九・三%にして稍増加を見た(第五十、五十一及五十二表参照)。

次に二〇六工場の各別に疾病のみに就て觀察するときには深夜業禁止後罹病率の減少を見たる工場数は二六(總数の一二・六%)、増加を見たるは六工場(三%)にして増加したる工場多少存するも減少を見たるもの遙に多く、其の他は總體として増減なきものである。更に之を男女別に觀察するときには禁止後減少したるもの男工にては四一工場(一九・九%)、女工にては五八工場(二八・二%)、之に反し増加せるもの男工にては一二工場(五・八%)、女工にては二二工場(一〇・七%)にして男女別に観るも減少したるもの著しく勝つてゐる(第五十三及五十四表参照)。

第三章 平均出勤率

調査工場中勤番別に平均出勤率の記載なきものを除外し、前番にては一六九工場、後番は一六七工

場に就いて各月の平均出勤率を合計して更に平均値を求め、全工場に就て平均出勤率の増減を比較するに男工にありては前番昭和三年度九三・一二%、四年度九四・〇八%にして禁止後出勤率稍増加し、後番にありては昭和三年度九二・六九%、四年度九四・〇九%にして禁止後出勤率の増加は前番に勝つてゐる。

女工にありては前番昭和三年度九一・九四%、四年度九三・〇九%にして禁止後増加し、後番は昭和三年度九一・三三%、四年度九二・八七%にして同様増加し其の増加の程度は前番に勝つてゐる。之を各業種別に観るも何れも禁止後増加を示してゐる（第五十五及五十六表参照）。

更に工場別に之を観るときは一六九工場中禁止後前番出勤率の増加七九工場（總數の四六・七%）、減少二〇工場（一一・八%）、増減なきもの一工場にして増加せるもの多く、後番にありては一六七工場中増加九三工場（五五・七%）、減少一二工場（七・二%）、増減なきもの一工場にして同様増加せるものが多い。而して工場別に観るも男女工共後番の出勤率増加せる工場前番の夫に勝つてゐる（第五十七及五十八表参照）。

第四章 總括及結論

(一) 深夜業禁止前後秋冬期に亘る五ヶ月間の平均一ヶ月の罹病率の比較にありては男女工共禁止後罹

病率の減少を見、男工に於ては六四・四%、女工にありては三四・〇%の減少にして之を一ヶ年に換算するときは其の差甚だ大なるものがある。されど負傷率にありては大差がない。

(二) 之を各業種別に観るに罹病率に於ては織物を除く他の業種は何れも禁止後減少し、就中綿紡績男工に於て著しく一〇九・四%を減じ織物は大差なく、負傷率に於ては絹紡織女工に於て僅少の増加を來したる外何れも大差がないのである。

(三) 病類別に観るときは深夜業禁止後消化器疾患の減少最も著しく、感冒之に次ぎ、呼吸器疾患も亦減少し、結核、血行器疾患は大差なく、眼疾患は女工に於て大差なきも男工は減少してゐる。其の他の疾患も亦著しき減少を見た。負傷率に於ては男工は大差なきも女工にありては業務上外傷稍減少し、業務外外傷却て稍増加を見たのである。

(四) 工場別に之を観るに二〇六工場中深夜業禁止後罹病率男女工共減少せるもの一二・六%に對し増加せるもの三%にして減少せるものが多い。

(五) 平均出勤率にありては各番男女工共深夜業禁止後増加し、殊に後番は前番に比して出勤率の増加稍勝つてゐる。之を業種別に観るに前番及後番は何れも禁止後出勤率増加し、且つ後番の出勤率の増加前番に勝るものが多い。深夜業禁止前にありては後番は深夜勤務なるを以て深夜業禁止前後比較に於て後番の出勤率の差大なるは首肯することが出来る。

(六) 本調査は深夜業禁止前後短期間の調査に過ぎざるも、深夜業禁止は職工の罹病率の減少、出勤率の増加を招來したることを窺ふことが出来る。深夜業禁止に伴ひ、労働時間の短縮、其他各般の改善を見たることは事實なるを以て、本調査成績を直ちに以て深夜業そのもの、廢止の結果と觀ることは妥當ならずとするも、總括的には深夜業廢止が衛生上極めて良好なる結果を齎したるものとなすことが出来る。調査成績中の個々の事項例へば或る種の疾病負傷又は或る工場に於て總括的成績に一致せざるものあるは深夜業禁止後、日尙ほ淺きと、調査期間短きと其他個々の事由に影響せられたるものと觀るべく、總括的結論を左右するに足らない。疾病に就ては消化器疾患、呼吸器疾患、感冒等を著しく減少し得たるは深夜業禁止の直接影響として重要視すべきものである。

第四十七表 調査工場數

綿紡績工場	六六
綿紡織工場	七二
綿織物工場	二三
毛紡織工場	一八
絹紡織工場	二三
麻紡織工場	四
計	二〇六

第四十八表

新受診患者實人員並傷病率

業別	年別	性別	調査工場數	月末在籍人員	實數			傷病率		
					疾病	負傷	計	疾病	負傷	計
綿紡績	昭和三年	男	七	二五,四七・八	九,五〇九・四	一,四三三・三	一〇,九四二・七	三七四・三	五・四	四三〇・七
		女	七	二四,四八・七	七,七三二・四	一,三九四・四	九,一六六・八	三七・九	五・〇	三七四・九
		男	七	二六,三三・四	二四,八九〇・八	三,〇五七・六	二七,九四八・四	三六・三	四〇・一	三六六・四
		女	七	八四,〇五九・六	二五,四八一・四	三,四三六・一	二八,九一七・五	三〇・一	四〇・九	三四〇・〇
	昭和四年	男	七	二五,四七・八	九,五〇九・四	一,四三三・三	一〇,九四二・七	三七四・三	五・四	四三〇・七
		女	七	二四,四八・七	七,七三二・四	一,三九四・四	九,一六六・八	三七・九	五・〇	三七四・九
		男	七	二六,三三・四	二四,八九〇・八	三,〇五七・六	二七,九四八・四	三六・三	四〇・一	三六六・四
		女	七	八四,〇五九・六	二五,四八一・四	三,四三六・一	二八,九一七・五	三〇・一	四〇・九	三四〇・〇
	昭和三年	男	三	一〇,八一・四	三,三二〇・〇	一一・四	三,三三二・四	二四・四	一〇・五	二四・九
		女	三	九,二五・四	一,五七・八	一〇・八	一,六八六・六	一七・四	一・八	一八四・三
		男	三	四,五九・六	五,五八・六	二九・二	五,八七・八	二二・六	六・三	二七・九
		女	三	四,〇九・〇	四,四九・四	三・六	四,五三・〇	一〇・八	五・五	一五・二
綿紡織	昭和三年	男	一	七,三三・六	二,〇四五・八	三三・六	二,三六九・四	二七・八	四三・八	三三・三
		女	一	七,三三・六	一,八六九・四	三〇・〇	二,一七七・四	二五・九	四二・七	二九四・六
		男	一	一八,五九・八	三,九五九・四	五〇・四	四,四三三・八	二二・〇	二七・二	二四〇・二
		女	一	一八,四九・四	三,五六七・三	四七・八	四,〇〇三・〇	一九四・二	二五・七	二一九・九
	昭和四年	男	一	七,三三・六	二,〇四五・八	三三・六	二,三六九・四	二七・八	四三・八	三三・三
		女	一	七,三三・六	一,八六九・四	三〇・〇	二,一七七・四	二五・九	四二・七	二九四・六
		男	一	一八,五九・八	三,九五九・四	五〇・四	四,四三三・八	二二・〇	二七・二	二四〇・二
		女	一	一八,四九・四	三,五六七・三	四七・八	四,〇〇三・〇	一九四・二	二五・七	二一九・九
	昭和三年	男	一	七,三三・六	二,〇四五・八	三三・六	二,三六九・四	二七・八	四三・八	三三・三
		女	一	七,三三・六	一,八六九・四	三〇・〇	二,一七七・四	二五・九	四二・七	二九四・六
		男	一	一八,五九・八	三,九五九・四	五〇・四	四,四三三・八	二二・〇	二七・二	二四〇・二
		女	一	一八,四九・四	三,五六七・三	四七・八	四,〇〇三・〇	一九四・二	二五・七	二一九・九

業別	綿紡織				絹紡織				毛織				業別
	昭和三年	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年	昭和四年	
性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	性別
感冒	五、九〇・三	五、三三〇・一	五、〇二八・六	五、二九二・一	二、二〇六・三	一、八八〇・三	一、二四四・二	一、三六四・二	一、三六四・二	一、二四四・二	一、三六四・二	一、三六四・二	感冒
結核	〇・四	〇・四	〇・六	〇・六	三・四	六・三	二・〇	二・〇	四・四	六・〇	三・〇	三・〇	結核
結核以外呼吸器疾患	三、八	四、四	六、六	八、六	七、四	六、九〇	一、九六八	一、九三六	三、八〇〇	三、三三二	一、二七〇	一、二七〇	結核以外呼吸器疾患
消化器疾患	六、四	四、二	四、二	四、〇	一、五五二・三	一、二八八・六	三、九三三・七	三、一七〇・四	一、一八八・八	一、一八八・八	一、一八八・八	一、一八八・八	消化器疾患
血行器疾患	一・三	一・八	二、〇	二、三	七、三	八、二	二〇、八	二〇、八	八、二〇	五、七	三、九	三、九	血行器疾患
眼疾患	六・五	八・八	二、七〇	二、七〇	四、六	六、〇	二、九四・八	二、七〇	四、六	四、六	一、三〇	一、三〇	眼疾患
其他疾患	五、六	三、六	八、九	二、七〇	一、六五〇・二	一、四八〇・六	五、八六六・六	五、九七九・八	一、六五〇・二	一、四八〇・六	四、八二〇	四、八二〇	其他疾患
小計	三三、〇	一五、七・八	五三、九	五三、九	二〇、九	二〇、九	二〇、九	二〇、九	二〇、九	二〇、九	二〇、九	二〇、九	小計
外業務上	七・〇	七・八	二、八	二、八	一、二七	一、二七	一、二七	一、二七	一、二七	一、二七	一、二七	一、二七	外業務上
外業務外	四・四	三・〇	二、八	二、八	九、四一・六	九、四一・六	九、四一・六	九、四一・六	九、四一・六	九、四一・六	九、四一・六	九、四一・六	外業務外
小計	一一・四	一〇・八	五、六	五、六	一〇、三三	一〇、三三	一〇、三三	一〇、三三	一〇、三三	一〇、三三	一〇、三三	一〇、三三	小計
合計	三三、四	一六、八・六	五九、五	五九、五	三〇、二	三〇、二	三〇、二	三〇、二	三〇、二	三〇、二	三〇、二	三〇、二	合計

備考 ×は増加を示し△は減少を示し其の他は増減なきものなり。

第五十表 病類別新受診患者実人員

業別	綿紡織				絹紡織				毛織				
	昭和三年	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年	昭和四年	
性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	性別
感冒	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	感冒
結核	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	結核
結核以外呼吸器疾患	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	結核以外呼吸器疾患
消化器疾患	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	消化器疾患
血行器疾患	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	血行器疾患
眼疾患	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	眼疾患
其他疾患	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	其他疾患
小計	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	小計
外業務上	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	外業務上
外業務外	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	外業務外
小計	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	小計
合計	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	合計

第四十九表 深夜業禁止前に對し罹病率増減

業別	綿紡織		絹紡織		毛織		
	昭和三年	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年	昭和四年	
性別	男	女	男	女	男	女	性別
疾病	△	△	△	△	△	△	疾病
負傷	△	△	△	△	△	△	負傷
計	△	△	△	△	△	△	計

業別	綿紡織				絹紡織				毛織				業別
	昭和三年	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年	昭和四年	
性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	性別
工場数	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	工場数
月末在籍人員	八、二四七・九	八、二四七・九	八、二四七・九	八、二四七・九	八、二四七・九	八、二四七・九	八、二四七・九	八、二四七・九	八、二四七・九	八、二四七・九	八、二四七・九	八、二四七・九	月末在籍人員
疾病	二、九三三・一	二、九三三・一	二、九三三・一	二、九三三・一	二、九三三・一	二、九三三・一	二、九三三・一	二、九三三・一	二、九三三・一	二、九三三・一	二、九三三・一	二、九三三・一	疾病
負傷	四〇六・五	四〇六・五	四〇六・五	四〇六・五	四〇六・五	四〇六・五	四〇六・五	四〇六・五	四〇六・五	四〇六・五	四〇六・五	四〇六・五	負傷
計	三、三三九・六	三、三三九・六	三、三三九・六	三、三三九・六	三、三三九・六	三、三三九・六	三、三三九・六	三、三三九・六	三、三三九・六	三、三三九・六	三、三三九・六	三、三三九・六	計
疾病率	三、三三九・六	三、三三九・六	三、三三九・六	三、三三九・六	三、三三九・六	三、三三九・六	三、三三九・六	三、三三九・六	三、三三九・六	三、三三九・六	三、三三九・六	三、三三九・六	疾病率
負傷率	四、〇三三	四、〇三三	四、〇三三	四、〇三三	四、〇三三	四、〇三三	四、〇三三	四、〇三三	四、〇三三	四、〇三三	四、〇三三	四、〇三三	負傷率
計	四、〇三三	四、〇三三	四、〇三三	四、〇三三	四、〇三三	四、〇三三	四、〇三三	四、〇三三	四、〇三三	四、〇三三	四、〇三三	四、〇三三	計

業別	麻紡織				總計			
	昭和三年	同四年	同三年	同四年	昭和三年	同四年	同三年	同四年
性別	男	女	男	女	男	女	男	女
感胃	三・五	二・七	三・四	一・七	二・五	一・八	三・三	二・六
結核	—	—	—	—	—	—	—	—
結核以外呼吸器疾患	二・三	一・六	二・四	一・四	二・三	一・五	二・九	二・一
消化器疾患	三・三	二・八	三・八	二・六	三・二	二・四	三・九	三・七
血行器疾患	二・〇	一・九	二・八	二・三	二・〇	一・九	二・九	二・九
眼疾患	一・〇	〇・九	一・〇	〇・七	一・〇	〇・九	一・〇	〇・九
其他の疾患	五・〇	四・八	六・三	六・二	五・〇	四・八	五・九	五・九
小計	一三・六	一〇・三	一五・九	一三・八	一三・六	一〇・三	一五・九	一三・八
外業務上	九・五	二・一	四・二	四・六	九・五	二・一	四・二	四・六
外業務外	三・五	三・七	二・一	一・七	三・五	三・七	二・一	一・七
小計	一三・〇	一五・八	一三・〇	一三・〇	一三・〇	一五・八	一三・〇	一三・〇
合計	一四九・九	一四九・〇	一六五・六	一四九・一	一四九・九	一四九・〇	一六五・六	一四九・一

第五十二表

病類別罹病率%深夜業禁止前に對する増減

業別	綿紡織		綿紡績		性別	感胃	結核	結核以外呼吸器疾患	消化器疾患	血行器疾患	眼疾患	其他の疾患	小計	外業務上	外業務外	小計	合計
	女	男	女	男													
感胃	二・八	二・九	二・四	二・二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
結核	〇・〇	〇・三	〇・一	〇・一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
結核以外呼吸器疾患	三・四	四・〇	三・七	三・九	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
消化器疾患	二・三	二・九	二・一	二・六	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
血行器疾患	〇・九	〇・三	二・六	二・一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
眼疾患	三・七	三・〇	六・〇	三・一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
其他の疾患	一・五	二・四	三・〇	七・六	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
小計	三・〇	二・九	一・九	四・四	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
外業務上	一・〇	〇・四	二・二	〇・三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
外業務外	〇・七	〇・四	三・六	一・七	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
小計	一・三	〇・八	五・八	一・九	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	三・〇	二・六	一・九	四・三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

總計	麻紡織		絹紡織		毛紡織		綿織物	
	女	男	女	男	女	男	女	男
感胃	二・三	二・五	二・六	二・七	二・八	二・八	二・九	二・八
結核	〇・一	〇・一	〇・一	〇・一	〇・一	〇・一	〇・一	〇・一
結核以外呼吸器疾患	三・一	三・七	三・一	三・七	三・一	三・七	三・一	三・七
消化器疾患	一・〇	一・四	一・〇	一・四	一・〇	一・四	一・〇	一・四
血行器疾患	〇・一	〇・一	〇・一	〇・一	〇・一	〇・一	〇・一	〇・一
眼疾患	三・七	三・七	三・七	三・七	三・七	三・七	三・七	三・七
其他の疾患	一・五	二・六	一・五	二・六	一・五	二・六	一・五	二・六
小計	三・〇	二・九	三・〇	二・九	三・〇	二・九	三・〇	二・九
外業務上	一・〇	〇・四	一・〇	〇・四	一・〇	〇・四	一・〇	〇・四
外業務外	〇・七	〇・四	一・八	一・八	一・〇	一・五	〇・四	〇・七
小計	一・三	〇・八	二・八	二・二	一・四	二・一	〇・八	一・三
合計	三・〇	二・六	三・〇	二・六	三・〇	二・六	三・〇	二・六

備考 ×は増加にして△は減少其他は増減なきものなり。

第五十三表 深夜業禁止前に對し罹病率の増減工場數及比率

業別	調査工場數	實數		比率	
		減少したるもの	増加したるもの	減少したるもの	増加したるもの
綿紡織	七二	一三	四	—	—
綿紡績	六六	五	二	—	—

業別	年別	前		後		前		後	
		番	番	番	番	番	番	番	番
綿紡績	昭和三年	九二・九九	九二・五八	九三・一二	九三・四二	九二・四二	九一・六九	九二・一七	九二・一七
綿紡績	同四年	九四・一一	九四・一五	九三・九三	九三・九三	九三・二九	九二・九八	九三・三二	九三・三二
綿紡績	同三年	九三・〇二	九二・六四	九二・九八	九二・〇二	九二・〇七	九一・〇五	九一・八二	九一・八二
綿紡績	同四年	九三・六一	九三・七一	九三・八四	九三・〇七	九三・〇七	九二・九四	九二・四〇	九二・四〇
綿織物	同三年	九三・二六	九三・二〇	九四・七四	八九・五六	九二・二七	八九・九四	九一・〇五	九一・〇五
綿織物	同四年	九五・七七	九五・一九	九四・九三	九二・二七	九二・〇九	九二・〇九	九一・九四	九一・九四
毛紡績	同三年	九二・〇七	九一・六〇	九二・九〇	九〇・四二	九〇・四二	九〇・三三	九〇・二九	九〇・二九
毛紡績	同四年	九二・五七	九二・六三	九一・六六	九〇・八〇	九〇・八〇	九〇・五五	八九・六六	八九・六六
絹紡績	同三年	九四・五二	九三・四四	九三・九一	九三・七八	九三・二〇	九三・四四	九三・三二	九三・三二
絹紡績	同四年	九五・三一	九五・一八	九五・二一	九五・二〇	九五・二〇	九五・一〇	九四・〇二	九四・〇二
麻紡績	同三年	九五・〇二	九四・四七	九四・八五	九三・三二	九三・三二	九三・一三	九二・〇五	九二・〇五
麻紡績	同四年	九五・〇四	九四・九五	九五・八二	九五・〇〇	九五・〇〇	九四・一〇	九四・一〇	九四・一〇
計	同三年	九三・一一	九二・六九	九三・二七	九一・九四	九一・九四	九一・三三	九一・九〇	九一・九〇
計	同四年	九四・〇八	九四・〇九	九三・九二	九三・〇九	九三・〇九	九二・八七	九二・六一	九二・六一

第五十五表 一工場當り平均出勤率深夜業禁止前後比較

業別	工場數	實		數		調査工場に對する百分比	
		減少したるもの	増加したるもの	減少したるもの	増加したるもの	減少したるもの	増加したるもの
綿紡績	六六	一一	一六	一六・七%	二四・二%	一〇・六%	一〇・六%
綿紡績	七二	一一	二三	二九・二%	三一・九%	一六・七%	一六・七%
綿織物	二三	一	四	四・三%	八・七%	五・六%	五・六%
毛紡績	一八	三	七	一六・七%	三八・九%	一一・一%	一一・一%
絹紡績	二三	一	一	二・七%	三・八%	四・三%	四・三%
麻紡績	四	一	一	二・七%	五・〇%	四・三%	四・三%
計	二〇六	四一	五八	一九・九%	二八・二%	一〇・七%	一〇・七%

第五十四表 深夜業禁止前に對し男女別罹病率の増減工場數及比率

業別	調査工場數	實		比	
		減少したるもの	増加したるもの	減少したるもの	増加したるもの
綿紡績	二三	一	一	四・三%	四・三%
綿紡績	一八	一	一	五・六%	五・六%
綿織物	二三	一	一	四・三%	四・三%
毛紡績	四	一	一	二・七%	二・七%
絹紡績	四	一	一	二・七%	二・七%
計	二〇六	二六	六	一二・六%	三%

業別	種別	前		後		専	
		男	女	男	女	男	女
總計	調査工場数	一六九	一六九	一六七	一六七	一六三	一五六
	増減	一〇六	一一二	一一六	一二七	九九	一〇五
増減なし	増減なし	五四	五一	四三	三五	五六	四二
	増減なし	九	六	八	五	八	九
		男女共	男女共	男女共	男女共	男女共	男女共
		一六九	一六九	一六七	一六七	一六三	一五六
		一〇六	一一二	一一六	一二七	九九	一〇五
		五四	五一	四三	三五	五六	四二
		九	六	八	五	八	九
		男女共	男女共	男女共	男女共	男女共	男女共
		一六三	一六三	一五六	一五六	一六三	一六三
		七三	七三	七三	七三	七三	七三
		二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
		三	三	三	三	三	三

備考 表中男女共とあるは同一工場にて男女共に増或は減を示すの意である。

第五十八表 平均出勤率深夜業禁止前に對する増減工場數百分比

種別	調査工場數	前		後		専	
		男	女	男	女	男	女
總數	調査工場數	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
	増減	六・七	六・三	六・五	七・〇	六・七	六・三
増減なし	増減なし	三・〇	三・三	四・八	三・〇	四・九	五・八
	増減なし	三・三	三・三	四・八	三・〇	四・九	五・八
		男女共	男女共	男女共	男女共	男女共	男女共
		一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
		六・七	六・三	六・五	七・〇	六・七	六・三
		三・〇	三・三	四・八	三・〇	四・九	五・八
		三・三	三・三	四・八	三・〇	四・九	五・八
		男女共	男女共	男女共	男女共	男女共	男女共
		一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
		四・八	三・〇	四・九	五・八	四・八	五・八
		一・八	一・三	一・八	一・三	一・八	一・三

備考 表中男女共欄にて一〇〇・〇に満たざるは同一工場男女何れかが増或は減を示すものあるがための結果である。

第五編 餘暇利用及福利施設

第一章 緒言

職工の餘暇を善用して智徳をみがき、福利を増進せんとする事は、已に一般工業主の意を用ふるところであり、深夜業の廢止に伴ひ、餘暇善用の必要及び指導獎勵の方法等は、一層緊切な問題として、社會一般より注目せらるゝところとなつた。蓋し餘暇の善く指導せらるゝ事は、労働者の健康及び福利を増進し、文明の進歩の見地から分離する事が出来ないからである。ことに深夜業の廢止は、我國主要工業たる紡績業を主たる對象とし、女子労働者の福利に關する問題と密接な關係を有する。云ふ迄もなく、紡績工場は、多數の女子労働者を寄宿舎に收容して居る。其の大部分は年の若い未婚者であつて、所謂嫁入り前の最も重要な處女時代を工場内に生活するのである。従て其の餘暇を善用して多くの趣味を追求せしめ、作業に依つて加へられたる疲勞を緩和し、健康の増進及び智徳の練磨を計るといふ事は、將來の社會の福利を約束する上に於て極めて重要性がある。本調査は右の趣旨に基き、特に深夜業廢止前後に於ける餘暇利用福利施設の状態につき、第二編第四表に示すが如き内容を照會し、工場主よりの意見を蒐集したものである。

而して調査項目を摘録すれば次の通りである。

- イ、教育修養に関するもの
 - 補習學校、裁縫手藝、徒弟職
 - 工の技術教育、講演、修養團
 - 其他文庫又は圖書其他
- 一、體育に関するもの
 - 屋外遊戯
 - 室内遊戯
 - 體操其他
- ハ、娛樂に関するもの
 - 音樂、映畫
 - 演劇其他
- 等に對する
 - 一、施設狀況
 - 二、利用狀況
 - 三、深夜業廢止前後の比較

二、深夜業廢止後の餘暇利用に関する大體の方針及び實狀概況
以下各工場よりの回答を整理し、總括的觀察を試みれば次の如くである。

第二章 職工の種類及餘暇時間

(一) 職工の種類

本調査は紡績工場を對象とする。従つて職工の七六・一%は女工であつて、其の九四%は寄宿舎に收容せらるゝものである。之れに對し、男工は僅かに全體の二三・九%であるが、其の八五%は通勤工に屬して居る。此は職工の餘暇利用方針上考慮すべき點である。

第五十九表 職工の種類

性別	種類別		通	勤	寄	宿	計	百分率
	男	女						
計			八九、三三一		一三七、八四九		二二七、一八〇	一〇〇・〇〇
男			四五、九〇七		八、二六五		五四、一七二	二三・八五
女			四三、四二四		一二九、五八四		一七三、〇〇八	七六・一五

(二) 職工の餘暇時間

操業方法の形式は左表に見る如く、職工を甲番乙番の二組に分割して交替に就業せしむる二交替制に依るものが多數を占め晝專一組の片番制を採用するものは二〇六工場の中僅かに七工場を數へるのみ。

就業時間は二交替制に依るものにあつては午前五時より午後十一時に至る十八時間を二組に分割して就業せしむるもの、即九時間労働の形式を採るものが百七十二工場八三%に對し十時間乃至十一時間のものは僅かに四、五工場を數へるのみ。而して一組片番別に依るものは大多數が十時間労働であるから、従前の十一間労働に比し労働時間に於ては事實上約一、二時間の短縮に外ならない。従つて職工の餘暇時間は、食事、睡眠、掃除、洗濯、雑務に要する時間を除いては一日平均僅か三、四時間に

C. 一般普通教育の普及を主とするもの
女子の経済的觀念の徹底を期す
普通教育の普及

一〇四

D. 修養を主とするもの

一〇九

女工の外出度數増加し其の結果彼の女達が不倫行爲に陥ることなきやを恒る
悪風に染まざらしむ
精神修養

E. 趣味及娛樂を主とするもの

一七五

趣味教育
農藝趣味の涵養
外出せしめざる様娛樂設備を充實す
娛樂を主とす

F. 其他

一三

餘暇利用委員會の規定に依る

總計

一九二

(二) 男子に對するもの

A. 職業教育を主とするもの

作業上の教育

工場従業員として

技術の習得

一一

計

四

B. 健康及體育の普及を主とするもの
體育を主とす

計

一一

總計

一五

之れは我國の紡績女工の大部分が年の若い未婚者であつて、工場に働く年限も短く、多くは數年の後には歸郷して嫁入りするものにして、終生其の職業に就くといふものは、殆ど稀れな状態であるに對し男子職工は多く其の職業を終生のものとして育て上げて行かねばならない。かゝる見地より男子職工に對しては職業に熟達せしむる事を主要なる目的とし、女子職工に對しては職業的熟練の外、將來家庭婦人として世帯を經營してゆくに必要な家事教育、趣味の向上等により善良なる母性としての教養を備へしめんとするの趣旨に基くものであらふ。何れにしてもかゝる職業的熟練及び母性教育の見地以外に健康の増進及び體育の普及を目的とするものが著しく多數を占めて居るといふ事は深夜業廢止後の餘暇利用方針としては概して適切である。

第四章 餘暇利用福利施設狀況

(一) 智育及修養に關するもの

本項に屬する施設は補習技術教育を授くる學校、圖書新聞雜誌の縦覽、講習會講演會の開催、修養

團體等であつて其の概況は次の如くである。

(イ) 學校

A. 補習教育

一般に普及されて居るものは補習教育に關する施設である。本調査の對象が紡績工場であつて職工の多數が女工であるところから左表の如く、補習女學校及び實科女學校が主位を占めて居るが、殊に實業補習學校規則に基く補習學校の設立を見たること及び實科女學校へ委託授業の方法を採るものなどがあるのは在來の如き形式的な一般補習教育の方法から一歩進んだ段階であつて、職工の好學心の向上と共に眞に喜ばしい傾向である。

第六十二表 補習教育機關の種類

學校の種類	工場數	百分率	學校の種類	工場數	百分率
縣知事認可補習女學校	三七	一七・九	家庭の常識講座	一	〇・四
實科女學校	三〇	一四・五	成人講座	一	〇・四
男工普通補習教育	八	三・八	家事講習會	二	〇・九
女工普通補習教育	四一	一九・九	其他	一四	六・七
實業補習學校	四	一・九	計	七四	三五・九
實科女學校へ委託授業講習會	一	〇・四		二〇六	一〇〇・〇
講習會	三	一・四			

學科目の編成に就いては在來の國語、算術、地理、歴史、作文、習字、體操、音樂等が主たるものであるが、更に婦人衛生、育兒、家事等の如き、母性教育を行ふもの、又和歌、俳句、圖畫等の如き趣味教育を奨励するものも相當に多く、尙專科制度の採用に依つて、職工の興味と要求とに合致した興味中心主義に依る教育方針を採らんとするものも二、三見受けられる。

學校の修業年限は左表の如く、一年若しくは二ヶ年とするものが多いのであるが、認可補習學校、實科女學校、實業補習學校等は四年程度のものが多い。

第六十三表 修業年限別補習學校

學校年限	四年	三年	二年	一年	半年	不明	なし	計
認可補習學校	二〇	一〇	五	一	一	一	一	三七
實科女學校	五	一	八	二	一	一	一	二〇
男工普通補習教育	一	一	一	一	一	一	一	八
女工普通補習教育	一	一	一	一	一	一	一	四一
實業補習學校	一	一	一	一	一	一	一	四
實科女學校へ委託講習會	一	一	一	一	一	一	一	一
家庭常識講座	一	一	一	一	一	一	一	三
成人講座	一	一	一	一	一	一	一	一
家事講習會	一	一	一	一	一	一	一	二

計	其 な き も の 他	學 校 年 限						
		四 年	三 年	二 年	一 年	半 年	不 明	な し
三〇								
一〇								
三三								
二九	六							
七	二							
一七								
六	六							
二〇六	七四	一四						計

修學の時間は毎日午前及び午後、就業時間外の二時間づつを普通とする。

第六十四表 授業時間別補習學校

學校の種類	毎 日 行 ふ も の					一週四回	短期講習	計
	三時間	二時間	一時間半	一時間	一時間			
認可補習女學校								三七
實科女學校								二〇
女工普通補習教育								四一
男工普通補習教育								四
實業補習學校								八
實科女學校へ委託								一四
講習會								一
家庭常識講座								三
成人講座								一
家事講習會								二
計								二〇六

計	其 な き も の 他	
	一	二
一三		
六九		二
九		
五		一
二		
一五		二
二〇六	七四	一四

一日の餘暇時間三時間乃至四時間の中平均二時間づつを教育修養に利用するといふ事は相當な努力を要する事であらふ。

次に授業時間の出席歩合に依つて、職工側の之等施設に對する要求、感興の傾向等を推測すれば一般に極めて薄弱なるが如くである。勿論學科目の種類、程度、教授方法等に依つて見るのであるが、本調査の結果より見れば普通の補習學校程度の學校で五〇%迄といふものが最も多く八〇%迄といふものは割合に少い。

第六十五表 出席人員別補習學校

學校	出席率	出席率					不明	計
		二〇%まで	五〇%まで	八〇%まで	一〇〇%まで	不明		
認可補習學校							三七	
實科女學校							二〇	
男工普通補習教育							八	
女工普通補習教育							四一	
實業補習學校							一四	
實科女學校へ委託							一	
計							二〇六	

教育機関の種類	工場数	百分率	教育機関の種類	工場数	百分率
組長見廻教育	二	〇・九	青年訓練所職業科	二七	一三・一
他工場の見學	八	三・八	なし	一〇・六	五一・四
短期講習會	一二	五・八	計	二〇六	一〇〇・〇

C. 裁縫手藝教育

女子の教育として特にかづけらるべきは裁縫及び手藝に関する教育的施設である。本調査の結果を一覧すれば、次の如くである。

第六十八表 裁縫の教育機関

裁縫の教育機関	工場数百分率		裁縫の教育機関	工場数百分率	
	工場数	百分率		工場数	百分率
裁縫女學校を特設せるもの 補習學校の分科として行ふもの	一二	五・八	なし	九一	四四・一
	五七	二七・六		二六	一二・六
講習會	二〇	九・七	計	二〇六	一〇〇・〇

教授方法としては實科女學校の第二部に加へるもの多く、又別に裁縫學校を特設するものもある。教育の年限は左の如く學校の種類に依て異なるが、一年乃至二年迄のものが最も多い。

第六十九表 修業年限別裁縫學校

學校	修業年限	裁縫女學校					不明なし計
		裁縫女學校	補習學校分科	講習會	一般裁縫	なし	
計	半年			五			
	一年						
	二年	二	三〇				
	三年	五	一五				
	不明なし計	七六	四九	一五	一二		二〇六

一日の授業時間は一時間乃至二時間のものが大多数を占めて居る。

第七十表 裁縫學校の授業時間

學校	授業時間	裁縫女學校					不明計
		裁縫女學校	補習學校分科	講習會	一般裁縫	なし	
計	一時間			一三	三五		
	三時間	二	四〇		三〇		
	三週三時間				二〇		
	不明				一〇		
	不明計	四四	二六	一〇	八		二〇六